



KAGOSHIMA Y'S MEN'S CLUB

2025. **1**月号

鹿児島ワイズメンズクラブ No. 409

国際会長：A. Shanvaskhan [インド] より良い世界のために、共に
Together for a Better World

アジア太平洋地域会長：Joan Wong [香港] 大きなインパクトを起こそう
Make a Great Impact

西日本区理事：鶴丹谷 剛 [神戸クラブ] つなげよう地域と世界 YMCAとともに
Connect Local and World with YMCA

九州部部長：大崎 隆 義 [熊本さくらクラブ] 始めからもう一度



みつかる、つながる、よくなっていく

鹿児島クラブ会長 新内 博之

12月例会報告

鹿児島クラブ 中堀 清哲

鹿児島クラブ12月例会はクリスマス例会として、12月10日に『珈琲館かみむら』で開催されました。ゲストには山口ワイズのご友人の高木伸江様、上之園真知子様がお越しくださいました。先ずは加治屋町教会の松本敏之牧師よりクリスマスメッセージを頂き、厳かな中にも優しい松本先生のクリスマスのお話でした。コロナ禍もあって、ここ数年は食事は取らないクリスマス会でしたが、今年は食事と少しのお酒も堪能できました。皆で歌を歌ったり、山口ワイズの手品や新内コメントのしりとりゲーム、プレゼント交換など、とても楽しいアットホームなクリスマス例会でした。私個人としては、今回くらいのパーティーがこじんまりとしてよい規模だと思います。準備してくださった実行委員の皆様や場所を提供してくださった神村ワイズに心より感謝申し上げます。



TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT



今年1年の会長通信では、テーマである「みつかる」「つながる」「よくなっていく」に関連した内容を発信してまいりたいと思います。

年の始まりは、何か新しいことにチャレンジしたいと考えるタイミングです。私は、4年ぶりにパソコンを買い替えました。そのパソコンはAIパソコンと呼ばれ、人工知能が搭載されたまさに近未来のパソコンです。

私のチャレンジしたいことは、生活や仕事にAIを活用していきたいということです。昨今AI技術について語られることが多くなりました。ChatGPTに代表されるように、IT大手が競ってAI技術を開発し、まさに日進月歩で成長している分野ですが、総務省の情報通信によると、AIは1950年代からすでにあるそうです。コンピューター技術の進化が情報化社会を支え、AIの実用化に至っています。例えば、スマートフォンにある音声で文字入力や操作ができる機能やお掃除ロボットなど、日常で活躍しているものがあります。

AIへの未来を感じるとともに、使う人間の能力が高くないとAIを使いこなせないという課題もあるようです。AI専門家の言葉を借りれば、すでに一般的な日常業務の7割はAIが代行できるそうです。常にマンパワー不足を痛感している鹿児島YMCAにとってはとても魅力的な存在、それがAIですが、そのAIに対して的確な指示を出せる能力がないと使いこなせないのだと考えています。

ために、鹿児島ワイズメンズクラブについてAIに質問してみました。

質問内容は以下の通りです。

鹿児島ワイズメンズクラブは高齢化とメンバー減少が大きな課題となっている。ワイズでしたいなにかが「みつかる」、ワイズを軸に「つながる」、ワイズの活動を通して「よくなっていく」をコンセプトとしてクラブの活性化を行うための良い方法を教えてほしい

AIの答えはこちらです

ワイズメンズクラブのような地域のコミュニティ活動は、とても素晴らしい取り組みですね。「みつかる」「つながる」「よくなっていく」をコンセプトにしたクラブの活性化のアイデアをいくつかご提案します。

1. 若者の参入を促進する活動

新しいメンバーを募るために、若い世代にも興味を持ってもらえるようなイベントや活動を企画しましょう。例えば、キャリアセミナーやワークショップ、地域のフェスティバルへの参加などが考えられます。

2. 地域との連携を強化する

地域の他の団体や学校、企業と連携して、共同でプロジェクトを進めることも効果的です。地域全体での取り組みとして、さらに多くの人々に関わってもらうことができます。

3. デジタル化の推進

クラブの活動をオンラインでも活発に行うことで、より広い範囲の人々にアプローチすることができます。SNSやウェブサイトを活用して、クラブの活動内容を発信し、新しいメンバーの募集や情報共有を行いましょう。

4. メンバーの意見を取り入れる

既存のメンバーの意見を積極的に取り入れて、活動内容や運営方法を改善することも重要です。アンケートやディスカッションを通じて、メンバーが本当に求めているものを把握し、それに応じた活動を行うことで、メンバーの満足度を高めることができます。

5. ボランティア活動の充実

地域社会への貢献をさらに強化するために、ボランティア活動を充実させることも考えられます。例えば、地域の清掃活動や、福祉施設でのサポートなど、具体的な取り組みを増やすことで、クラブの存在意義を感じてもらえるでしょう。

このようなアイデアを参考にして、クラブの活性化に取り組んでみてください。どれか一つでも実行することで、メンバーのつながりが強まり、より良い活動が展開されることを願っています！

以上がAIが提案する質問の答えです。参考になる部分もありますが、私の質問の仕方の問題かもしれませんが、杓子定規的なアイデアだなと思うところもありますよね。AIは世の中のデータをどんどん取り込み今この瞬間も成長しています。私自身も学びを深めて2025年はこのAIと向き合って、日常生活を充実していきたいなと思います。

最後に印象的なお話をひとつ。半世紀以上前に出版された手塚治虫の名作「火の鳥 未来編」です。AIを題材としたストーリーが描かれています。

西暦3404年、発展しすぎた人類社会は、緩やかに下降の道を下っており。人々は無気力の塊となり、自ら考えて意思決定することなしに、都市全体を制御する電子頭脳「ハレルヤ」に全ての判断を委ねていました。主人公の1人は、恋愛の趨勢までも人工知能の命令に従うようになり、最終的に人工知能による核戦争が始まり、人類が滅ぶという顛末に及ぶという話です。子供のころに読んだ物語ですが、今もなお鮮明に記憶に残っています。

AIをうまく活用するということは自らの考える力を伸ばすということを肝に銘じ、AIを活用してより効率的な、生産性のある仕事ができるよう、2025年も頑張っていきたいと思います。今年もどうぞよろしくお願いいたします。



新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。今年は日本にとって大きな節目の年となります。奉仕を通じ社会貢献をする我々団体としても、こうした節目を通し、今一度将来への活動の展望や方向性の議論を深めるきっかけになればと思います。

1月1日で能登半島地震から1年を迎えますが、9月の奥能登豪雨も重なり、いまだ先の長い復興途上にあります。被災地を想い、引き続きYMCAと共に我々が出来る支援の継続をしていきたいと思っています。

11月をもって前期の各部公式行事も概ね収束しましたが、12月には宝塚クラブ主催のOneChristmasに参加しました。20年つづく地域と共につくられる市民コンサートは、多くの演者の方々や市民が関わり、ワイズらしさが随所に溢れる素晴らしい会でした。また同日夜には、ラオス有志の会の報告・忘年会に参加し、前日ラオスから帰国されたばかりの大野嘉宏ワイズより、いよいよ2025年秋のピエンチャンYMCA国際ホテル専門学校開校に向けた具体的な進捗をお聞きし、胸に熱いものがこみ上げました。地域に、世界にと多面的に影響を及ぼす様々な活動が展開されている事に本当に嬉しく思います。

今月の樹 ヤクスギ(屋久杉)

屋久杉(やくすぎ)は、屋久島の標高500メートル以上の山地に自生するスギ。狭義には、このうち樹齢1000年以上のものを指し、樹齢1000年未満のものは「小杉(こすぎ)」と呼ぶ。また屋久島で植林された杉を「地杉(じすぎ)」と呼ぶが、樹齢100年以内の小杉を指す語としても用いられる。このように使い分けて呼ぶのは、主に地元で昔から生活に密着した材料であったためである。工芸品でも有名とされる。一般に、杉の樹齢は長くても500年程度であるが、屋久杉は桁外れに長い。栄養の少ない花崗岩の島に生える屋久杉は成長が遅く木目(年輪)が詰まっており、降雨が多く湿度が高いため、抗菌作用のある樹脂分が多く腐りにくい特徴を持つ。そのため樹木の寿命が長いといわれ、樹齢2000年以上の大木が多い。これまで確認されているなかで最大の幹周り16.4mを持つ樹齢2000年から7200年ともいわれる縄文杉、紀元杉やウィルソン株が有名である。屋久杉の驚異的な樹齢については、長寿で知られるセコイア等でも1,000年程度と他の樹種の高齢樹と比べても隔絶したものであるため、かつてはとくに海外の学者からは疑問を呈されることも多かった。これらの樹齢は、かつては太さから推定されたものであったため、複数の樹が癒着した合体木ではないかとする向きもあった。同じ木からの複数の落ち枝が苗木のように育って合体木になっている可能性もあるため、同じ遺伝子であっても太さだけで樹齢を確定できないが、現在では放射線年代測定によれば2000年以上の木があることが確認されている。

(ウィキペディア参照)



12

December 12月クリスマス例会報告

日時：令和6年12月10日(火) 19:00～21:00

場所：珈琲館かみむら

出席者：13名(ゲスト 松本 敏之牧師・

高木 伸江様・上之園 真知子様)

司会者：山口ワイズ

12月例会の記録

クラブ在籍者	9名
出席者	8名
メネット	1名
コメット	1名
ゲスト	3名
ビジター	0名
メイクアップ	0名
12月出席率	144%

今月の聖句

すべての人と共に平和を、また聖なる生活を
追求めなさい。 ヘブライ12章14節



鹿児島ワイズメンズクラブ
WEBサイトはこちら▶



年末年始日本代表チャレンジ合宿

愛知、静岡、鹿児島の合同チームでチアダンスの日本代表にチャレンジしているプロジェクト。1月26日のグランドファイナル大会に向けて、年末年始休暇を利用して合同合宿を富士山の麓で行ってきました。そして、26日のグランドファイナルでは3位入賞となりましたが、残念ながら日本代表には選出されませんでした。チームの垣根を越えて、挑んだビッグチャレンジ。結果以上に子どもたちは得たものが大きかったのではないかなと思います。



チアダンスウィンターキャンプ

2月1日に予定しているチアダンス九州大会に鹿児島YMCAから11チームが参加します。頑張って練習してきた成果を発表する場として参加するわけですが、それに先立ち、チームとしての友情を深め、一緒に頑張る経験をしようと1月4、5日でキャンプを行いました。



鹿児島ヤクルトプレゼンツ健康フォーラム

1月18日に鹿児島ヤクルトが主催する健康フォーラムにチアダンスメンバーが出演しました。法人賛助会の会員社でも鹿児島ヤクルトからは度々大きなステージに呼んでいただき、社会との接点となる機会をいただいています。



鹿児島YMCA 新内 博之